

## 勿凝学問 217

目を疑った日経の「けいざい解説——崩れた輸出立国モデル」  
「消費税を前倒しで引き上げて国民が安心できる社会保障制度の再構築を急ぐ手もある」

2009年1月18日  
慶應義塾大学 商学部  
教授 権丈善一

ここ最近言っていたことは、

政治なんてものは、出来の悪い学生に対する教育と同じで、減点法で向き合っちゃダメですよ。とにかくこちらが求めていることを一つでもやってくれる可能性がある限り、忍耐強く待っておく。そしてその一つをやってくれた暁には、それだけで単位をあげるくらいの気持ちでいないと。中曽根さんは昔、「一内閣一仕事」と言っていたような記憶があるけど、今の内閣に期待されている「一仕事」は、社会保障の機能強化のために消費税を含めた税制抜本改革の道筋をつけてくれること——これまで、誰も、どの内閣もやったことがないんだから、他は些事だというくらいの度量をもって我慢強く眺めておきましょう。失言は確かに多い。しかし中には、「3年後に消費税を含めた税制の抜本改革をお願いしたい」という、政治家の目からみれば大変な失言、でも、僕らから見ればなかなか良い失言もある。

といっても僕は、ジャック・スパローよろしく主体的浮動票を演じる自由人。今の内閣よりも、もっと大胆にもっとスピーディに積極的社会保障政策を展開するための財源調達論議をしてくれる政党が出てくれば、いつでも鞍替えするけどね。

そういう僕が、今朝、日経新聞を見ていて目を疑った。「けいざい解説——崩れた輸出立国モデル」(編集委員 発田真人氏)。なにやら文章のひとつひとつが、いいぞいいぞその調子という内容で、ついつい読み進める。そうすると最後の文章は・・・

消費税も消費税率引き上げ時期を明示するか否かを争うよりも、むしろ思い切って前倒しで引き上げて国民が安心できる社会保障制度の再構築を急ぐ手もある。“逆張り”かもしれないが、新しい国造りを目指す議論があってもいい。

いや、“逆張り”じゃないね。